

加瀬みきの  
ワシントン発  
グローバル随想

## 史上最強の米副大統領



イラスト・題字：長峯亜里

歴代副大統領の中で最も影響力があったのは疑いなくリチャード・チェイニー氏である。

アメリカが世界唯一のスーパーパワーの時代に国防長官そして副大統領としてアメリカの国内外政策を左右したが、昨年11月に逝去するまで、厳しい批判の対象でもあった。



リチャード・チェイニー氏

## 居場所のない副大統領

通常、副大統領というのは気の毒なポストだ。大統領選挙では票を上乗せし、大統領候補の弱点をカバーする貴重な存在だが、いざ政権が誕生すれば、大統領に万が一があった場合のスペアでしかない。ほとんどの場合、人事でも内政でも外交でも蚊帳の外である。

第二次世界大戦中ルーズベルト大統領が急死した際、トルーマン副大統領はアメリカが核兵器を完成させ、日本への投下を検討していたことを全く知らされていなかった。ジョンソン副大統領はケネディ大統領と側近たちから完全に阻害され、大統領が殺害された際には、副大統領による暗殺計画とのうわさが立つほどであった。

そうした慣例を一変させたのが、政治経験が浅く、外交経験はなく、議会との付き合いも分

からないジョージ・ブッシュ(息子)大統領の副大統領となったチェイニー氏であった。

## 出会いが築いたキャリア

チェイニー氏はワイオミング大学で政治学修士号取得し、その後ウィスコンシン大学で博士課程で政治を専攻した。学者の道を歩んだかもしれないが、知識、出会いと人柄が政治の現場に進ませた。ニクソン大統領の政権に入ったロナルド・ラムズフェルド氏の右腕に<sup>ばってき</sup>抜擢され、次のフォード政権でラムズフェルド氏が大統領補佐官となると副補佐官としてホワイトハウスに勤務するようになった。有能で謙虚、控えめと高評価され、ラムズフェルド氏が国防長官になるとチェイニー氏は34歳で史上最年少の大統領補佐官となり、<sup>ちょうほう</sup>諜報関連業務にも携わった。

その後下院議員となったが、わずか十年余りで共和党下院院内幹事という重職に就いた。下院諜報委員会の一員として極秘中の極秘とされた「核戦争下で政府を継続する」演習に加わった。そしてジョージ・ブッシュ(父)氏が大統領に就任すると国防長官として1989年の冷戦終結、翌年のパナマの「民主主義を守り、麻薬取引撲滅」を理由としたノリエガ軍事政権打倒、そしてイラク軍をクウェートから撤退させた湾岸戦争に深く関わった。湾岸戦争後は短期間で